

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

2020J3 ■順位表■第21節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

（注：*印は消化試合が1つ少ない）

* 1	秋田	50p	+27	34	7	
2	熊本	41p	+13	39	26	HO AO
3	長野	39p	+16	32	16	H●
4	相模原	38p	+3	28	25	A●
* 5	岐阜	37p	+11	35	24	---
6	鹿児島	36p	+7	34	27	AO H●
7	鳥取	33p	+3	28	25	AO
8	今治	32p	+5	21	16	H△ AO
9	藤枝	31p	+2	35	33	A●
* 10	富山	27p	+4	33	29	AO
11	G阪23	24p	-5	31	36	HO
12	沼津	23p	-6	23	29	A△ HO
13	岩手	23p	-13	19	32	H△
14	福島	21p	-9	29	38	AO
15	YS横浜	19p	-17	26	43	HO
* 16	八戸	18p	-11	25	36	AO
17	讃岐	16p	-11	22	33	H△
18	C阪23	14p	-19	21	40	A●

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第22節 vs. 福島ユナイテッド

10/18(日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : **ブラウブリッツ秋田**

2019 J3 13勝10分11敗 勝ち点49: 8位

直近の対決と結果

2007/11/11
JFL - 後期14節@仁賀保
TDK SC 0-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ブラウブリッツ秋田
2020/10/14 J3 - 21節@長良川 岐阜 0-1 鹿児島	2020/10/11 J3 - 21節@ヤンマー C阪23 2-3 秋田
2020/10/07 J3 - 20節@夢スタ 今治 2-3 岐阜	2020/10/07 J3 - 20節@ソユスタ 秋田 0-0 YS横浜
2020/10/04 J3 - 19節@えがおS 熊本 2-3 岐阜	2020/10/03 J3 - 19節@ソユスタ 秋田 2-1 岩手

ブラウブリッツ秋田

1965(昭和40)年創設の東京電気化学工業(TDK)サッカー一部が前身。1982(昭和57)年から東北リーグに参戦し3年間で2敗と圧倒的強さを見せる。地域決勝挑戦3年目にJSL2部のチーム数増があり、東北から初の全国リーグへ参戦する(2年で降格)。2006(平成18)年の地域決勝では決勝ラウンド初戦でFC岐阜に1-0で勝利。その後の2戦をともにPK勝ちとしぶとく勝ち点を重ね、大会優勝で2度目の全国リーグ、JFL昇格を勝ち取る。2010年からブラウブリッツ秋田となり、2014(平成26)年からJ3に参戦し、2017(平成29)年にはJ3優勝。J2ライセンスがないために昇格は果たせなかった(現在はJ2ライセンスを保有)。ちなみに、FC岐阜がJFL昇格した2007(平成19)年にTDKから移籍加入したのが大友慧。現在はコロナ禍で行えていないが、FC岐阜が勝利した試合で選手とサポーターで行う『万歳四唱』は、彼によって岐阜にもたらされた。(吉田铸造)

●仲田健二監督体制になってから調子を上げ、ようやくJ2昇格争いに名乗りを上げたFC岐阜。5連戦の第3戦目となる、10/11(日)第21節・ホーム鹿児島戦は、序盤からお互いに攻撃のチャンスをつくるが、両者とも攻撃に精度を欠き、決定機までには至らない。後半に入って選手交代で攻撃のギアを入れた鹿児島に対し、岐阜も選手交代で対応しようとしたが、その直前の隙を突かれて失点。その後は攻勢を強める岐阜だったが同点に追いつけず、0-1で非常に悔しい敗戦。初の5連勝を達成することはできなかった。

この試合で負けてしまったFC岐阜は、勝ち点を相模原に抜かれ、順位を暫定4位から暫定5位に下げた。ただし、2位に再浮上した熊本との勝ち点差は4。まだJ2昇格を悲観するような勝ち点差ではないし、そして我々に下を向いている暇はない。中2日の今日10/14(水)、雷雨で中止となった8/30(日)第12節・ホーム秋田戦の代替試合が行われる。他の上位チームは試合がないから、秋田に勝つことができれば、勝ち点40で単独3位に順位が上がる。ここで踏みとどまれるかどうか、今後のシーズンの行方にも大きく影響するだろう。気持ちを切り替えて、目の前の試合に全力で臨んでほしい。

さて、今節の対戦相手は、先述したようにブラウブリッツ秋田だ。2017年にはJ3で優勝するが(なお、当時の秋田はJ3ライセンス)、過去2年は8位に終わったため、前・沼津監督の吉田謙氏を迎えて体制を刷新。選手も半分近くを入れ替えて臨んだ今季は、開幕から無失点の6連勝、その後も連勝を9に伸ばして首位を独走。直近の5試合では2引き分けを喫しているが、それでもダントツの首位、そしてJ3無敗記録を20に更新しており、圧倒的に強いチームだ。今季の秋田は、前線からのボールへの素早い寄せ、奪ってからの素早いカウンター攻撃、精度の高いセットプレー、そして最後まで走り抜く全員攻撃・全員守備を武器としており、そのチーム名の通り“青い稲妻”だ。5ゴールの#22沖野将基と(前節で復活の逆転ゴールを決めた)#9中村亮太の両選手は要注意だが、総得点34の半分近くをセットプレーで叩き出している秋田では、キッカーでJ3アシスト数トップの#15江口直生こそ最も警戒すべき選手だろう。これに対して、昨年まで秋田の守護神だった、#31GK松本拓也を中心とした岐阜の守備陣が、その攻撃を零封する姿を期待したい。

また、秋田は前節のC大阪U23戦以外では複数失点試合を許しておらず、20試合を経過した現在も総失点が7と、桁外れに堅牢な守備を誇る。6月・7月のJ3月間MVPにも輝いた#21GK田中雄大が立ちほだかる秋田の牙城を、しかし岐阜の攻撃陣が必ずや崩してくれると信じよう。また、2010年にクラブ化した秋田とは初対戦となるが、前身のTDKとは2006年に地域決勝・決勝ラウンドで対戦し、TDKは優勝、岐阜は2位だった。翌2007年JFLでの対戦は、岐阜の1勝1分・1得点無失点。13年ぶりの対戦となるが、今回も岐阜の勝利で終わらせなければならない。

首位・秋田との直接対決。厳しい困難な対戦相手ではあるが、この壁を乗り越えなくては今後の岐阜に明るい未来はない。コロナ禍で僕らができる応援はまだ限られているが、多くのサポーターでスタジアムを埋めて、厳しいコンディションの中でも戦う選手たちの背中を押そう。タオマフ・ゲーフラの掲出(振るのは禁止)や手拍子・拍手で、勝利を掴むために最後まで走り続ける選手たちを支えよう。そして、社会的距離を保ちながら、勝利の歓喜を選手たちと分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第21節】岐阜 0-1 鹿児島

●どっちも連戦で疲労の色は隠せなかったけど、鹿児島の粘つてい守備と、この試合落とせない、岐阜にダブル(連勝)はやらせないっていう意地がほんの少し上回っていたのかなという印象。あと失点の場面は交代ボードが出てたけど、鹿児島がそれをさせずに素早くスローインでボールを入れ、クロスを入れられて、一瞬気が抜けちゃったかな。

あと審判のジャッジに不快な声が多数上がっていたけれど、決して審判のせいでは負けたわけではない。

さて秋田戦、状況的には絶対に勝ちに行きたい一戦、今シーズンの総決算のつもりで戦ってもらいたい。『皇国の興廃この一戦にあり。各員一層奮励努力せよ』(岐阜の誇り)

●台風一過で秋が深まるのかと思いきや、再び暑さが戻ってきて汗ばむ天候の長良川。湿度はないけど、中3日での5連戦の3戦目、選手の疲労蓄積が少し心配な状況。

さて、1年でJ2復帰を目指す上位チーム同士の2戦目は、お互いにチームの特色を出して攻撃を仕掛ける。主にパスワークで攻める岐阜は、しかし周囲のサポートや押し上げが弱い。一方の鹿児島は1対1での強さやドリブルで仕掛けるが、岐阜の守備陣にボールを奪われる。膠着状態が続くが、しかし前節までの4連勝した時のような運動性や連動性が岐阜には不足していた気がした。たぶん、仲田監督は何度か「足が止まってるよ！」って選手たちに叫んでたと思う。

後半になると、先に選手交代で攻撃のギアを入れた鹿児島が攻勢になり、これに対応すべく選手交代を準備していた岐阜…そのわずかな時間帯を鹿児島に突かれてしまった。CKをクリアし選手交代になるかと思って油断した岐阜に対して、素早くスローインでプレーを続行した鹿児島が先制。この後、選手交代で攻撃のスイッチを入れ直そうとした岐阜だったけれど、やはりサポートや押し上げがないため厚みのある攻撃にはならず、逆に球際で鹿児島に負ける場面が。結局、同点には追いつけずに敗戦。ようやくJ2昇格争いに名乗りを上げたのに、非常にもったいない、そして鹿児島に息を吹き返させる敗戦となってしまった。

たしかにこの試合は、個人的には納得いかない主審の判定が多かった。だけど『これがJ3のサッカーだ』し、失点シーンは言い訳できない状況だった。それで岐阜の選手たちがナーバスになってしまったのならば、鹿児島の選手たちのしたたかさに攻略されてしまったとも言えるだろう。岐阜の選手たちには気持ちをきちんと整理した上で、次に臨んでほしい。そして、今日の笛に腹が立つのは理解できるけれど、ガイドラインを守れない観客に対しては、Jリーグが「退場の制度化」を明文化する方針を固めていること、そして「ガイドラインの制限緩和」は、各スタジアムの観客自らの行動によって決まっていくということを、改めてFC岐阜サポーターとして、皆で肝に銘じておきたい。(ささたく)

●う～ん、残念。手痛い敗戦となってしまったな。DAZN観戦だったが、全体的に精彩を欠いていたという印象。決定機といえば、後半開始早々の10番のシュートとアディショナルタイムのCKからのヘディングくらいかな？鹿児島の最終ライン、特に真ん中の2人が手強かったように見えた……と思ったら青山直晃でしたか。もう一人は新潟からのレンタル。ホームグロウン制度を活かしてますねえ。うらやましい。

内容的にも鹿児島の方が優勢だったように思う。絶好の秋晴れではあったけれども、気温が高すぎたか。タイトなスケジュールをこなす選手達にはいささか厳しいコンディションだった。ただ、それは鹿児島も同じこと。試合後に見たSNSではけっこう取り上げられていた判定についても、DAZN観戦中は気にならなかったし、特に問題はなかった。偏りも誤審もなかったと思う。誤審とかいうなら前節の方が(苦笑)。

結局のところ、完敗というよりほかはない。惜敗とも言いづらい内容だった。せめて、引き分けに持ち込みたかったが、そううまくは行かないのがサッカー。次節はすぐにやってくる。もはや、相手が首位だろうと最下位だろうと関係ない。昇格するためにはただの一つも落とすわけにはいかないのだ。とっとと切り替えて、絶対、秋田に勝ちましょう！(ぐん、)

●正直言うと試合のことはよく憶えていない、というかどうでもよくなっちゃって……と、それじゃあいけないので印象を書くと、鹿児島の粘着質なDFにやられちゃったなあ、というところ。岐阜がDFラインでボールまわしてる時は4-4-2で出しどころをふさぎ、いざ岐阜の攻撃が始まるとボールホルダーにねちっこくねちっこく、諭えと道に落ちていた噛み捨てガムを踏んじちゃって「くっそー、靴底から取れねえっ！」とイライラするようなDFを90分完遂。そういうDFなので岐阜の攻撃手とのコンタクトも増えるんだけど、それが相手ボール(岐阜のファール)に取られることが多くて、ストレスフルな試合だった。しかし、岐阜がカウンターを仕掛ける時も、蓄積疲労のせいかわれなかつたし、相手DFもちゃんと戻って対応していた。ぼくは確認していないけど、鹿児島の監督は試合後のインタビューで「選手はよく戦ってくれた」と話すんじゃないだろうか。

試合の内容については以上。ここからはスタジアムの雰囲気について。後半30分過ぎくらいからかな、観戦しているお客さんから(特に「一部のゾーン」から)『声出しNG』が解禁になったかのように審判に対する不平不満が、まあ喧(かまびす)しくて。試合終了後も、挨拶が終わって引き上げる審判団に対しても大きな声が出ていたので、ぼくは気づかなかったけど、きっと試合中に『声出しNG』は解禁になったのでしょう。昨年には何度も目にしている「長良川競輪場」状態。懐かしいね。その先に待っているのは、今季のJ3開幕の頃のような『リモートマッチ』、なのかもしれない。いいんじゃない？「これが俺たちの長良川だ！文句は言わせねえ！」ってのなら。

まあ、でもそれだとリーグにも他チームにも迷惑かけちゃうんで、ここはポジティブに解決しよう。某バラエティ番組のフォーマットを借りて『絶対に声出ししてはいけない長良川競技場』キャンペーンを打ってみるのは、どうだろう(笑)。(吉田铸造)